

令和7年度 北海道清里高校学校 学校評価報告書

1 本年度の重点目標

■総合的な探究の時間を核としたカリキュラムマネジメントの実現

目 標
社会で生きる実践的な力の育成
地域とともにある学校づくり
信頼される学校づくり
働きがいのある組織体制づくり

■生命を尊重する態度を養う教育活動の充実

目 標
豊かな心と健やかな体の育成

自己評価の基準

◆達成状況の評価基準

- A：達成している
- B：おおむね達成
- C：やや不十分である
- D：不十分である

◆取組の適切さの評価基準

- A：目標を達成し、取組手法も妥当で効果的
- B：目標はおおむね達成されており、通常どおり実施
- C：取組に不足があり、目標達成が完全ではない
- D：取組が不適切、目標達成が困難

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

自己評価結果			学校関係者評価の結果	
評価項目	達成状況	取組の適切さ		
学習指導	学力向上や基礎・基本の定着を図る指導が充実している。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究活動については、先生方の評価も高く、着実に取り組みが深化してきている。 ・探究力を高めるためには、基礎学力の向上が必須であり、学習意欲を高める環境づくりについて、知恵を出し合う必要がある。 ・学校経営方針の課題にも、基礎学力の向上があげられている。学習意欲を持たせるための教育環境が大切だ。公設塾など、環境をどうしていくか、この場でも検討する必要がある。 ・学校の魅力化として、「国際理解」の取組を充実させる必要がある。
	授業形態、観点別評価を踏まえた評価方法など、個に応じた指導が充実している。	B	B	
	生徒の情報活用能力を育むとともに、ICTを活用した生きた授業づくりを進める。	B	B	
	T-base遠隔授業により、生徒のニーズに応じた質の高い教育を行っている。	B	B	
	授業改善を重視したカリキュラム・マネジメントにより、教育の質、効果が高まっている。	B	B	
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ①模試とリンクしたオンライン学習ツールの活用で、学習に対する意識の向上を図る。 ②ポイントを絞ったテーマ別の研究授業を実施し、教員個々の授業改善に資する研修を行う。 ③総合的な探究の時間で行われているICT活用のプロセスを教科活動へフィードバックさせる。 ④個に応じた具体的な進路目標設定のためのキャリアガイダンスを充実させる。 ⑤校長のリーダーシップと校内リーダーを中心とした全職員が協働する組織を構築する。 			
特別生徒活動指導	思考力、判断力、情報収集・分析能力、コミュニケーション能力を育む教育活動が充実している。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・若い先生の視点で、ひとりひとりの生徒に寄り添った指導をお願いする。 ・地域と学校が一体となった行事を行うことで、町民にアピールすると同時に、盛り上がる催しにすることができないか。 ・部活動の在り方は、もっと広域的に考えるべきだ。
	公共心や倫理観を育み、社会の発展に寄与する態度を養うボランティア活動等が充実している。	B	A	
	多様性を認め合い、いじめを未然に防止する人権教育が充実している。	A	A	
	特別活動や部活動の充実で、達成感・充実感・連帯感を高め、感動する心が育まれている。	B	B	
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭を生徒会を中心に見直しをすることで、特別活動へ主体的に参加しようとする態度を育成する。 ・中学校と連携した新しい全校ボランティアの取組を計画・実施する。 ・生徒の声を反映させた「生徒心得の見直し」を進めることで、自律の精神を育成する。 ・いじめ防止基本方針等を保護者に適切に周知する（懇談会等での説明に加え、ICTツールを用いる）。 ・小学校、中学校からの連続性を活かし、部活動の活性化を図る。 			
進路指導	キャリアパスポートや進学講習が充実し、学習意欲の向上や学習習慣の定着が図られている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と同じようなインターンシップは必要ないと感じる。高校生なりのインターンシップとなるような工夫が必要である。
	体験的活動により、相手を尊重し深い関係を築く力を醸成している。	B	B	
	地域行事への参加やボランティア活動等を通じた地域貢献を重視している。	B	B	
	ガイダンス等をとおして、望ましい職業観・勤労観が育成されている。	B	A	
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT学習ツールの有効活用と模試の事前事後指導の工夫で、生徒が主体を持って学ぼうとする態度を育成する。 ・3年間を見通したマップを作成し、進路ガイダンス機能の充実を図る。 ・地学協働コーディネーターを中心とした地域連携を進めることで、大人との関わりを通して、コミュニケーション能力を育成するとともに、職業観・勤労観を育成する。 			

自己評価結果			学校関係者評価の結果		
評価項目		達成状況	取組の適切さ		
健康安全指導	自他の生命を尊重する態度や健康保持増進のための実践力を養う教育活動が推進されている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・難しいかもしれないが、地域行事であるロードレースの全校参加や、斜里岳の登山等、地域に根差した体育的行事をするのはどうか。 	
	防災・防犯教室等を通して、危険に気付き回避する能力を育成している。	B	B		
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・全校的な教育相談週間を実施する。 ・1日防災学校など適切に実施できているが、管理職員がいない想定での実施など避難訓練を工夫する。 				
学校運営	地域や保護者への情報提供が充実し、情報交換等ができる関係を構築されている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートには厳しい意見もあり、保護者と学校運営協議会の話し合いの場を設けるなど、横の連携を深めることで、目標や課題を共有してほしい ・PTA活動など、あきらめずスクラムを組める仲間を少しでも多くする工夫をしていくことで、保護者と教員の距離を縮めるべき。 ・学校評価アンケートの結果から、保護者への情報発信など不十分であると感じる。保護者の具体的なニーズを聞く場を設けるべき。 	
	学校運営協議会を活用することで、学校運営の改善・充実、職員の働き方改革が推進している。	B	B		
	前例踏襲にとらわれず、教育活動や業務の大胆な見直しを進めている。	B	B		
	職員の協働意識と経営参画意識に基づいた組織づくりが推進されている。	B	A		
	備品や設備の整備が適切に行われている。	B	B		
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「note」による生徒の声を中心とした情報発信を充実させる。 ・MA+CHプロジェクト終了後を見据えた学校運営協議会の在り方を検討する。 ・生徒情報の共有化を図るため、職員打合せなどの持ち方を工夫する。 				